

# 1 「青天の霹靂」・「はれわたり」の高品質安定生産

## 【概要】

- 東青地域「青天の霹靂」・「はれわたり」生産指導プロジェクトチームを核として生産者や関係機関と情報共有し、講習会や個別指導等を通して、生産者の生産意欲向上と安定生産を目指した。

## 【背景・課題】

- 「青天の霹靂」は、これまでの出荷データの分析により、生産目標を下回る生産者が固定化する傾向がみられることから、ブランド維持のためには生産者個々の作付ほ場の条件や栽培方法を確認し、改善点を指導する必要がある。
- 令和5年に本格デビューした「はれわたり」の高品質安定生産のためには、関係機関等と密に連携して、適時適正な指導を展開する必要がある。

## 【普及指導活動の内容】

- 東青地域「青天の霹靂」・「はれわたり」生産指導プロジェクトチーム連絡会議を開催し、関係機関と活動内容等について意識統一した。
- プロジェクトチーム現地検討会を開催し、今年の管内の水稻生育状況や病虫害の発生状況、追肥指導等について情報共有した。
- 育苗期、追肥時期、刈取時期に講習会を開催し、特に、今年度も昨年ほどではないものの高温で経過していることから、飽水管理等により地温を下げる水管理や適期刈取指導を徹底した。
- 「青天の霹靂」作付者全員に栽培ポイントを示した「生産者カルテ」を配布するとともに、生産目標を下回った生産者に対して個別指導を実施した。

## 【成果】

- 高温に対応した水管理や適期刈取により、「青天の霹靂」の1等米比率は89%で、前年の83%を上回った。
- 「はれわたり」の1等米比率は94%で、前年の87%を上回った。

## 【対象名】

青森農協「青天の霹靂」生産者部会（40名）、青森県米穀集荷協同組合「青天の霹靂」作付生産者部会（2名）、(株)KAWACHO RICE（10名）  
管内「はれわたり」作付者



東青地域「青天の霹靂」・「はれわたり」プロジェクトチーム現地検討会



適期収穫講習会



東青地域「青天の霹靂」・「はれわたり」生産指導プロジェクトチーム連絡会議

## 2 トマト指定産地の生産力向上

### 【概要】

- 省力化に有効な自動かん水・施肥システムの導入を推進した。品種特性や天候に応じた肥培管理について指導を徹底するとともに、高温対策の必要性について啓発し、遮光技術の導入を促した。また、新規作付者等を中心とした個別巡回指導を行い、栽培技術の向上を図った。

### 【背景・課題】

- 管内のトマトは、高齢化や労働力不足等により栽培面積の減少が続いている。一方、ミニトマトは一戸当たりの栽培面積が増加傾向にあり、両品目とも省力化が課題となっている。
- 夏場の高温から軟果や裂果等の障害果が発生しており、障害回避のための技術対策や品種の切替等が必要となっている。
- ミニトマトは新規作付者が増加していることから、技術レベルの早期向上による経営安定化が急務となっている。

### 【普及指導活動の内容】

- 講習会で自動かん水施肥システムの導入により、かん水や追肥に要する作業時間が大幅に削減されること等について周知した。
- 高温対策では、新規の遮熱資材と従来の遮光資材を比較した試験ほの設置や有望品種を選定するための品種比較ほの設置を行った。また、着色不良果の発生が多かったことから、実態把握のためのアンケート調査を行った。
- ミニトマトの新規作付者等に対して個別巡回を行い、生育状況に応じた肥培管理や誘引方法、仕立て方法等について指導した。特に、6月下旬から8月にかけての大雨の際には、萎れ防止のための遮光資材の活用や酸素供給剤の施用等、事後対策指導を徹底した。

### 【成果】

- 自動かん水・施肥システム導入者は1名増の16名となった。
- 高温対策として、資材を活用した遮光対策が有効であることが認識され、遮光対策実施者は5名増の31名となった。
- ミニトマトの単収5 t / 10 a 以上の生産者は2名増加し9名となった。

### 【対象名】

青森農協トマト部会(77名)  
青森農協ミニトマト部会(30名)



自動かん水・施肥システム



品種比較試験ほ



着色不良果

### 3 サポート体制の強化による新規就農者の経営力向上

#### 【概要】

- ・ 非農家出身の新規就農者等が多い東青管内において、新規就農者が農業を生業として地域に定着できるよう、経営者として必要な知識の早期習得と東青地域の主要品目を主体とした所得確保に向けて、支援を強化する。

#### 【背景・課題】

- ・ 非農家出身者は、生産基盤の脆弱さや農業経営に対する考えの甘さ等から所得確保に苦戦している。
- ・ 就農希望者に対しては、経営者としての心構えの醸成や就農に向けた助言環境の整備が必要となっている。
- ・ 就農支援体制を強化するとともに就農希望者の能力向上が必要となっている。

#### 【普及指導活動の内容】

- ・ 研修受入農家等を対象にコーチング技術等向上研修会を開催し、研修生への接し方や労務管理等について学んだ。
- ・ 就農希望者の能力向上に向け、営農計画や生活設計の立案方法等の習得を目的とした農業総合セミナーを開催した。
- ・ 東青地域新規就農支援会議を開催し、東青版就農研修モデルや就農者の情報共有のルール化について検討した。
- ・ 就農マニュアルとして東青版「新規就農者向け営農指南書」を東青地域にあった就農形態や就農までの流れについて解説した準備編、主要品目（りんご、トマト、ミニトマト、ねぎ、ピーマン）の基本的な栽培方法を説明した技術編、就農時に使える補助金等を紹介する補助事業編の三編構成で作成した。
- ・ 農業経営のスキルアップや販売力の強化を目的としたSNS活用講座を開催したほか、随時、就農相談対応や補助事業の活用を支援した。

#### 【成果】

- ・ 関係機関等が一体感を持って支援を行う体制が整った。
- ・ 研修受入農家等の就農希望者とのコミュニケーション能力向上が図られた。
- ・ 経営データを取りまとめ営農指南書を作成し就農支援に活用する。

#### 【対象名】

- ・ 就農希望者（農業次世代人材投資資金（準備型）交付者7名等）
- ・ 新規就農者（農業次世代人材投資資金（経営開始型）交付者51名等）



S N S 実践講座の様子



就農状況の確認



東青地域新規就農支援会議